

TIMES マニュアル



ベニューリーダー

おかやす いつみ
080-4116-5426

いまむら ともや
070-1568-7769

プロダクトマネージャー

たまき しんすけ (展示)
080-3055-8694

にしだ みちこ (INFO)
090-9996-6632

ドレスコード

服装は、全体として**肌の露出が少ないもので、作品より目立たない節度ある身だしなみ** を心がけてください。

TIMESはコンクリート造りのため冷える可能性あり 各自 **防寒対策を**

色の指定なども特におこないません。

暑さ寒さ対策を最優先にお持ちのものでご対応くださいこのために新たにご用意いただくなくて大丈夫です

足も疲れない、動きやすいものが最適です。

⚠ 全体としてNG

- ・ミニスカートなどの露出の多いもの（危険な目にあいかねません）
- ・ダメージジーンズ
 - ・サンダル、ハイヒール
 - ・第二ボタン以下の開衿（肌の露出を伴う）

最寄駅からのマップ



京阪本線「三条」駅 徒歩3分

市営地下鉄東西線「三条京阪」駅 徒歩3分

「京都市役所前」駅 徒歩4分

⚠ TIME'Sに駐輪場はありません!

近くに有料駐輪場があるので

そちらを利用してください

最寄りの駐輪場



リノパーキング〔フェリチタ三条附置義務駐輪場〕

※TIMES正面ではなく、裏の通りにあります

スタッフ用入口

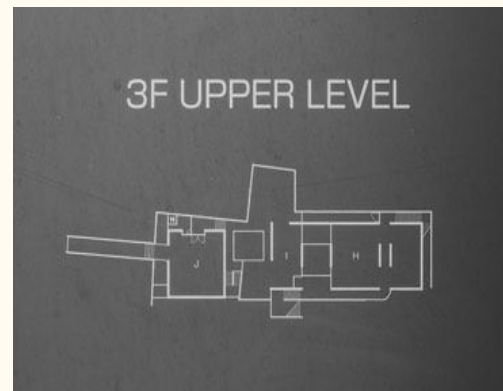


スタッフは西木町通方面の裏口から



集合場所は入り口を入れてすぐのところ

会場概要／展覧会場 MAP



※基本的に2階のみ
車いす対応可能

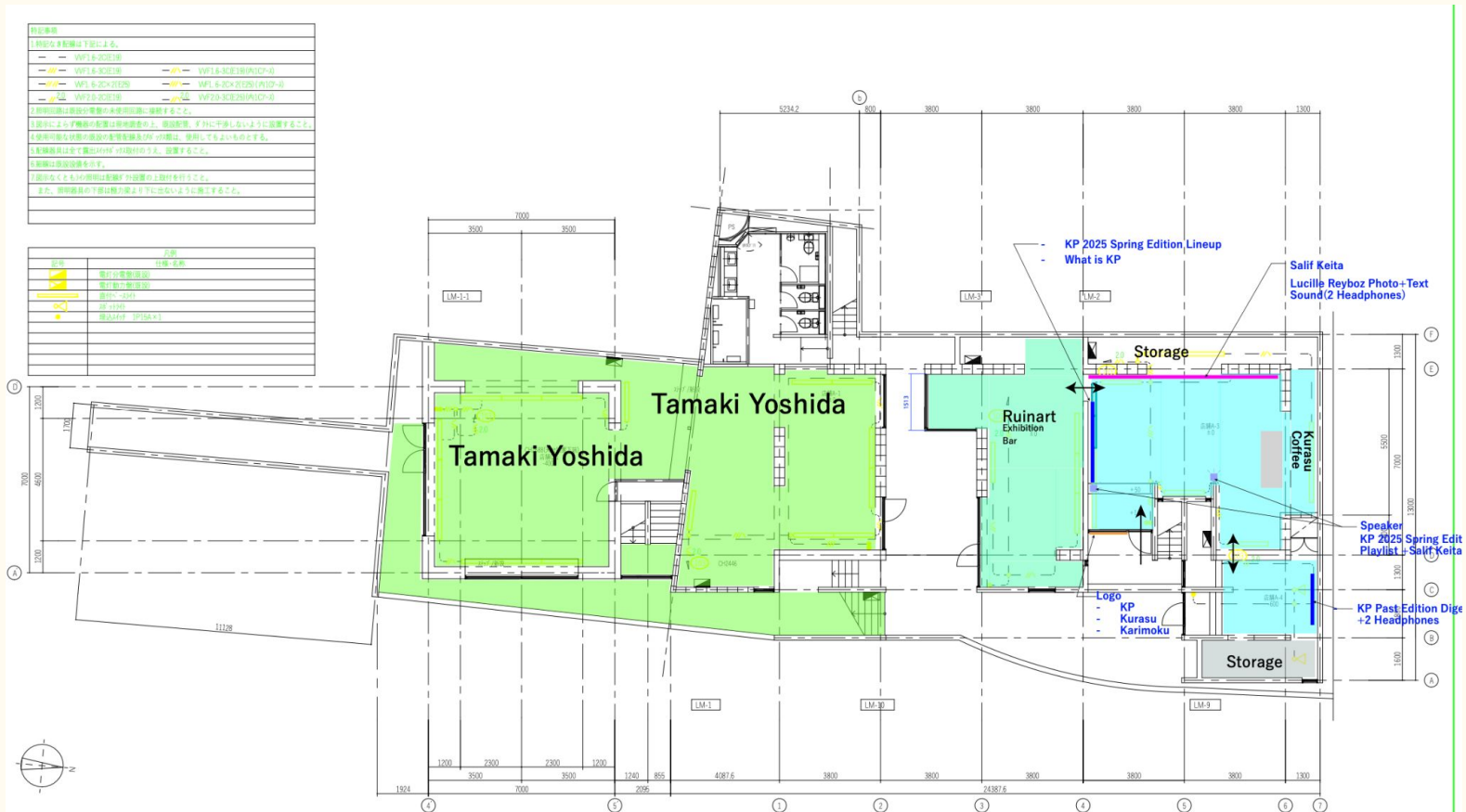
1階も、スタッフ余裕があれば、
協力して降ろして
見ていただく

1階 □田多麻希 / Cafe/ Kyotophonie 展示 観覧無料

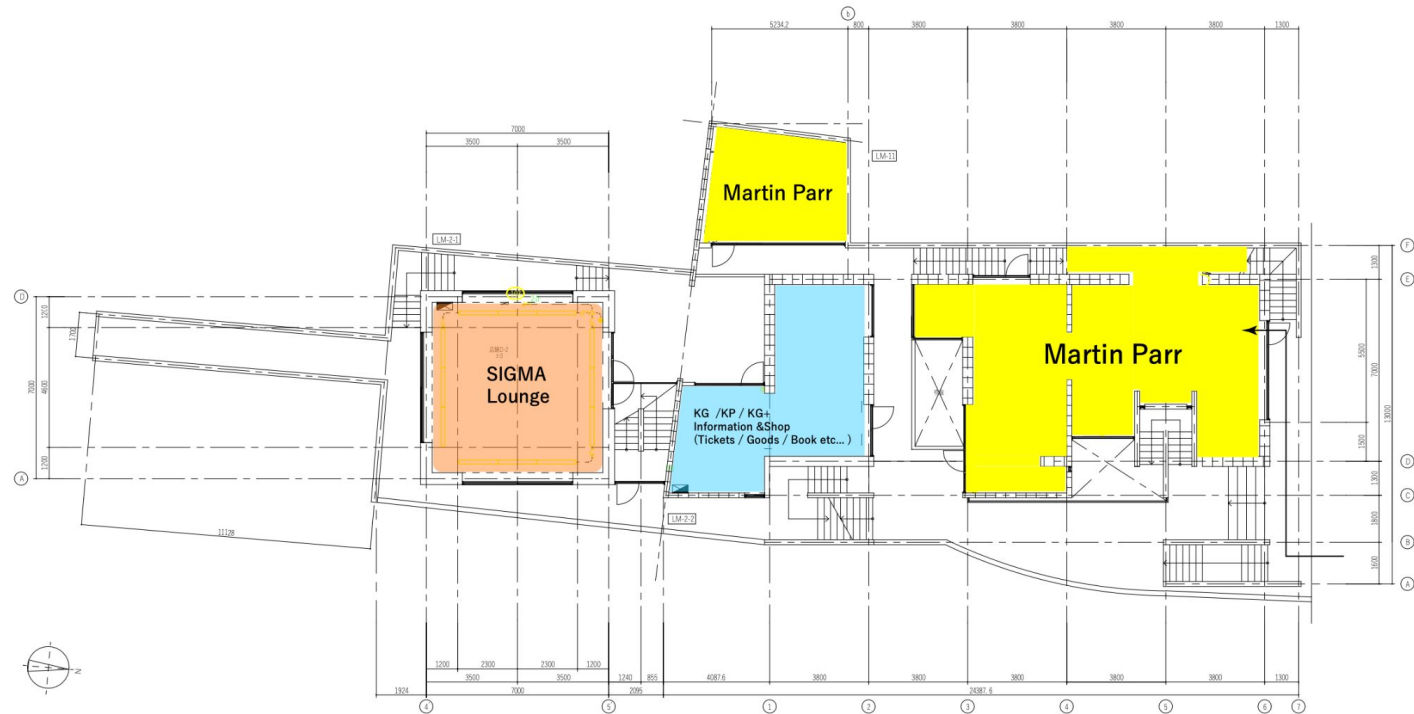
2階 Martin Parr(マーティン・パー) 有料 大人¥1,000 学生 ¥800

3階 パブリックプログラム (朝礼にて当日開催の有無・内容を共有します。イベントが無い際は閉めておくこと)

1F 詳細



2F 詳細



お手洗い



1F 女子トイレ
地下1F 男子トイレ

※スタッフ,お客さん共有

よく問い合わせがあるので、
場所と動線の確認をお願いします。

また、毎日清掃するようお願いします

スタッフポジション・看視場所

1F RIVER LEVEL




2F STREET LEVEL



会場の特殊事情

建物内には、無料会場(1F)と有料会場(2F)があります。

 **Martin Parrの単館チケットは 2F受付で販売！**

入り口→そのまま有料会場にいらっしゃった方に声かけ必須

開場中オペレーション(配置場所ごとの注意点、やること、声かけ方法などのポイント)

1F

無料会場だが、来場者のカウントが必要

手元に来場者カウント用のQRコードを準備し、来場者に応じて読み取る

2F

マーティンパーの展示の列と、隣接する指輪の店舗の列が重なり、混同する可能性あり。

列の整理を常に心がけておくことと、単館チケットをお持ちか確認すること

持っていないければINFOへ案内

3F

パブリックプログラムスタッフががいるため、基本的に管理する必要なし

(TIMESでは主にアーティストが作品について語るイベント)開催中は、

それを目当てにしてきているお客様を3Fへ誘導する必要あり

・開場時・閉場時のチェック項目

・鍵の保管場所や開け方

・音響機器の付け方

・機材の立ち上げ・シャットダウン方法

KYOTOPHONIEの関連の展示が1Fにて

音響系の展示となり、毎日立ち上げ・シャットダウン作業必要

※準備期間にて要確認

・雨天時オペレーション

展示概要・作品について

11A: Martin Parr (マーティン・パー)

Small World

In collaboration with Magnum Photos

セノグラファー: 寺田英史+ 的場愛美 (tamari architects)



1952年、イギリスのサリー州エプソム生まれ。1994年よりマグナム・フォトに所属。もっとも個性的といえる視覚芸術のアーティストのひとりであり、写真家、映像作家、コレクターとして一時代を築いている。

ヴィヴィッドな色と難解な構図で知られるパーは、日本、アメリカ、ヨーロッパ、そして母国イギリスなど、世界各地の文化の特性を研究し1985年以降は中国にも足繁く通っている。レジャー、消費、コミュニケーションといったテーマを辛辣な皮肉とともに長年探求している。

パーはこれまでに100冊以上の書籍を刊行し、30冊の書籍を編集。世界各地で個展やグループ展を多数開催し、ソニーワールドフォトグラフィーアワード特別功労賞(2017年)、エーリッヒ・ザロモン賞(2006年)、ボーム&メルシエ賞(2008年)など、パーのキャリアと現代写真への貢献が認められ、これまでに数多くの賞を受賞している。パーは2014年に財団を設立し、イギリスとアイルランドをテーマに作品を制作している新進気鋭の写真家や、これまで注目される機会がなかった写真家を支援している。

KYOTOGRAPHIE2025ではマスツーリズムをテーマに、長年世界中で撮影してきたユーモアたっぷりの作品に加え、開催直前に京都で撮影された新作を同時に発表する。

10: 田多麻希

土を継ぐ—Echoes from the Soil

Ruinart Japan Award 2024 Winner Presented by Ruinart

セノグラファー: 小高未帆 (PLUS DESIGNWORKS)



コマーシャルフォトグラファーとして多くの企業で活躍する傍ら、常々感じていた自然と人との関係の不平等さを見つめ直すべく2018年よりプロジェクトをスタート。どこか他人事になりがちな大きな問題からではなく、より身近な視点から人と自然や生き物の関係を問いかけるのが田のスタイルだ。現在は、生活排水による環境問題や、近年頻発している人と野生動物の事故などをテーマにしたプロジェクトに取り組んでいる。これらのプロジェクトにおいて田は、生き物の悲劇的な側面に焦点を当てるのではなく、人間の思考方法や無意識の行動に固執することに疑問を投げかけ、人と生き物の新たなバランスを模索することを目指している。

2024年、KYOTOGRAPHIEインターナショナルポートフォリオレビューの参加者より受賞者が選ばれる「Ruinart Japan Award 2024」を受賞。同年の秋にフランスを訪れルイナールのアーティスト・レジデンス・プログラムに参加し制作した作品を発表する。